

令和 3 年 10 月 5 日

ワークショップについて

氏名 雲尾 周

- 1 日 時 令和 3 年 9 月 28 日 (火) 14:00~16:45
- 2 会 場 黒崎市民会館ホール
- 3 参加者属性 (該当する所属を○で囲む)

公民館運営審議会委員 ・ 図書館協議会委員 ・ ユースアドバイザー ・ 社会福祉協議会職員

- 4 意見交換を行った活動事例 【略】
- 5 社会教育委員として、ワークショップを運営して感じたこと

日頃社会教育を行っているような、社会教育に関連する人たちでも、意見交換や協働などの機会もほとんどなく、このような形で交流できたことは、今後の社会教育の新しい形を進めるきっかけとなった(参加者からも、知り合えてよかった、これから一緒にやりたい、などの声が聞かれた)。

6 次世代育成につなげるための課題

- 1 班 参加者が増えない・時間がなくて関われない・つながれないなどの課題に対して多様なルートづくり、次世代育成の話し合いが求められる。【熟議をヒントにできるのではないかな】
- 2 班 社会教育施設を居場所として知ってもらう活動、生涯学習記録手帳、コロナ禍だから工夫しよう・正しい情報を得ること。【緊急提言でも正しい情報提供で頼られる社会教育に】
- 3 班 次世代育成は現世代育成、いろいろなやりたい事業をあげる、複数案から選べる。【参加者は少なくとも、効果は高くなさそうでも、できそうなことから始める】
- 4 班 高校・高校生の活躍、親同士のつながり、社会活動・地域活動をしたい保護者世代、アフターコロナの活動を話し合える場を学校に、新しい場や仕組みを考える。【働き方改革の中での地域学校協働本部づくり】
- 5 班 世代を超えた仲間づくり、楽しむ→認められる→続けられる、そういった講座を仕掛けると事から始まる。【楽しみ方は世代によってそれぞれ自由】

7 課題の解決策、ヒント

「社会教育による次世代育成について(建議)」で示された視点がかかなり有効であることが確認された。学びを生かす次世代育成：世代を超えた学びの継承と創造、新しいつながりによる次世代育成：いろいろな世代の学びの充実と展開、次世代育成の方向性(新しいつながりには新しい場、重要な領域(安全・安心、社会的包摂、地域学校協働活動))を再認識して進めて行けばよい。